

富は多くの友を増す。

A true friend does sometimes venture to be offensive.

眞實の友は、時としては我意に反くことをも敢てするものなり。

Adversity is the only balance to weigh friends. 災難は、朋友を量るべき唯一の秤なり。

(以下次出)



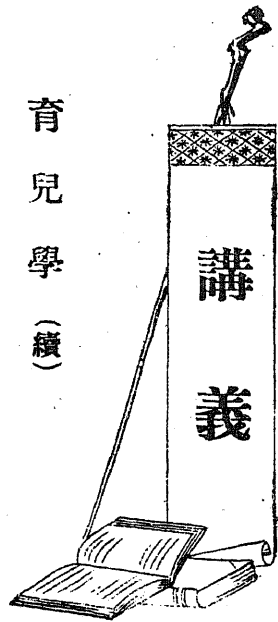
育兒學 (續)

中村 五六

第四章 清潔、運動及睡眠

●清潔、身體を清潔にするには、幼兒にありては健康上第一に必要であります。幼兒の皮膚は極めて細やかに美しく、又感じ易く且つ傷ひ易きものでありまして、其の上これが断えず不用の物を發散する部分となりて居ます。こゝに出づるものは即ち皆人の知れる汗でありまして、汗汁の中には、動物質や鹽分を含んで居ます。

皮膚の表面よりは、汗の外に脂肪分を出しまし



て、これが皮膚を柔軟にし、且つ幾分か傷害を防ぐの用をいたします。殊に頭、腋下、頭、鼻、曲りめの褶多し所には多量の脂肪が出でますれば、頭髮が乾き切りて折れ損ずることなく、皮膚が擦れ合ひても傷ふことなく、又皮膚にかけた水が小さき球となりまするは、全くこれが爲であります。

幼児にありては、此の脂肪の出づること、稀には、唯皮膚を柔軟にするに要する分量に超ゆることとがあります。而して、幼児健康のときには、これが非常に多く溜らざる限りは、不快の臭氣を放つことにはなりません。汗出で、不潔の物が混入し長く皮膚の上に滞るときには、皮膚の孔を塞ぎて發散を妨げ、従ひて不潔物の幾分は身體に止りて害を及ぼすか、又は腸、腎、肺の如き所に他

の通路を求めて逃げ出づることになり、此等内臓に過分の勞を課して、其の働きを弱むるの危険を生じます。加之時によりては、皮膚自ら弱くなりて面倒なる頑固の腫物等を生ずることに至ります。

皮膚より出づる物の成分を考へて用心すべきことは、左の二ヶ條であります。

- 第一、眼には見えざれども、其の成分中最も多き蒸氣を能く逃散せしむること。
- 第二、皮膚に附着して残れる固體の鹽氣の物を除くこと。

第一のことは其の質軽くして孔多く氣が通ふ如き衣服を體に緊り過ぎざるやうに着用し、且つ屢々之を着更むるときは、十分に其の目的を達します。第二のこを能くせんには、屢々温浴をなすにあ

ります。

温浴をなすの際には、しやぼんを使ふことを勧  
 びる人がありますが、これはいつも必要とは思は  
 れませぬ、幼児には事によりて害を與ふことが  
 あります。全體顔面、手足等に何か附着せるとき  
 は、しやぼんを使ふは入用でありませすけれども、  
 始終用ひまするときは、前に述べましたる脂肪の  
 働きを空しくすることになります。多く風を引く  
 ことの原因は之によることも少くありません。  
 故に幼児の沐浴には成るべく皮膚をあらさるる如  
 き上等のしやぼんを用ひ、通常の場合には奇麗な  
 る柔水を浴せしむるを、最も選ひべきことと思ひ  
 ます。

温浴の仕方は、前章に於て既に大略述べ置きた  
 したれば、こゝには詳しく説くのは要はあらずとい

思ひます。唯湯の温度をよく加減し、幼児の身體  
 を湯の中に沈めてよく洗ひ、寒氣に當て身振ひす  
 るなどのことなきやう、注意すべきことでありま  
 す。

身體を清むるに最もよき時は、臥床より起きた  
 る朝にあり、又入浴は寢に就くの前を最も宜しと  
 申します。幼児は入浴の後には快く眠るのを常とい  
 たしますれば、騒がしくぢれる小兒には寢る前の  
 入浴は効あることとなります。併し、幼兒身體の  
 模様によりては右の時を適宜に變ずることは大切  
 です、殊に冬季室内の温度を程よく保つ能はざる  
 場合に於ては、日中温暖なる時に於てすることを  
 安全の策と申さなければなりません。

入浴は幼兒の自然に好むものなれども、度外に  
 熱き湯に入れしことありとか、又は其の他の事情

に由りて、之を嫌ふもの稀にあります、かゝる場合に、強て入浴せしむることは出来ませぬ故に、温湯にて濕したる手拭等にて拭ひ清むることを致さなければなりません。如何なる場合にも、幼児の皮膚を濡らしたるまゝ、空氣にさらし置くときは、由々しき害を起すことありますれば、冷氣に當らざるやう、又速によくふき乾かすなどの注意が最も肝要です。

或人は幼児の生れたてより冷水浴をなさしむべしと、申しますけれども、最初よりは少し無理なるかと思ひます、唯幼児の身體非常に強壯にして、冷水浴により何等の障りなきときは、勿論利ありて害なきことであります。併し冷水浴は温暖なる時節より始むるとか、又は朝に體を拭ふに用ふる湯の溫度を漸次に引き下ぐるとか、何れに致せ、

徐々に冷水に慣れしむることが大切であります、又浴後十分の反動ありて、速に體が温まるの力なきときは、之を止めて温湯に代へるの外はないと思ひます。年齒漸く長じて抵抗力強くなりたるときは、冷水浴を試みしむるは望まじきことであります。全體浴後身體を磨擦し、又暫く裸體のまま、所謂空氣浴をなすは快よきのみならず、身體の爲に宜しきことなれば、健康の許す限りは、之を行ふは一利あること、思ひます。

身體を清潔にするは、皮膚より出でたる不潔物を除くのみならず、衣服より與ふる塵埃其の他の物を去るにあります。幼児生れて暫くの間は、腸及腎臟よりの排出物は不隨意に出づるものなれば、此等の不潔物を洗ひ去るの要は誰人も認むる所であります。

●運動、

●運動、 幼兒の身體を動かすは、其の健康に必要にして、又運動を好むは問までもなく明かなる事實でありませぬ。幼兒に適切な運動をなさしむるには、唯其の身體の有様をよく、心得置くこと肝要です。骨も肉も未だ柔弱の状態にある間は、其の強さを超えて勞せしむることは出来ませぬ。先づ幼兒の運動としては、唯之を横に若しくは斜に抱きて、室内又は戶外に運び廻はる丈にて宜しいのです。又浴後手を以て幼兒の身體手足の表面を靜かに撫で廻はすことは、血液の循環を自由平等ならしむるの効あるのみならず、大に幼兒に愉快を與ふるものであります。さるを親たるもの、幼兒の状態未だ筋肉の運動をなすに適せざるに當りて、己れの樂みに其の運動を勵ますとありませぬが、これらは非難を免るゝことは出来ませぬ。但

し幼兒自身に筋骨を勞して運動せしむる代りに之を抱きて、戶外純良の空氣中に於て靜に動運するは、大に奨勵すべきことであります。

夏季若しくは晩春に生れたる兒は、十四五日間は其の運動は室内に限り、其の後は時々十五分より二十分位戶外に於てするも宜しいです。されども冬季若しくは晩秋に生れたる兒は、戶外に出すことを得るのは、四週若しくは六週日の後にあります。但し是れ亦暖かなる好天氣に暫時の間に限りませぬ。

時節の如何に拘らず最も注意すべきは、考へもなく強き明り殊に太陽の光線に觸れしめざることです。何故と申すに、幼兒生れて數週間は其の眼は妙弱にして害を受け易く、且つ視力も甚だ不完全でありませぬれば、不意に光線に射らるゝとき

は、眼球の構造を害し、視力を弱くし、時によりては、全く明を失ふことに立ち到ります。

戸外に出でしむる時間は、最初十五分乃至二十分位より、月日がたつに従ひ漸次に長くして一時間又數時間に及ぶやう致します。幼児は多く戸外にあるを好むものでありますれば、其の好むに任せ格別の注意なきときは、危険に陥ることがあります。幼児の死するは夏より冬に多く、暖國より寒國に多き原因を、早くより戸外の冷氣に觸れしむるに歸する人ありと聞きて居ます。

幼児を抱くときは、時々其の向きを變へること大切です。然らざるときは、幼児の頭は重き故に常に一方に落ち懸り、遂に呼吸を妨ぐることになります。故に生れて四五ヶ月の間は、寝ねたる形にて抱くやうに致し、又常に身體に無理が出来ぬ

やう注意せざれば、柔かなる骨は曲りくるふことがあります。漸く身體の強さを増して、追々運動を多く要するに至りますれば、座敷に置き其の周りに玩具一二を添へて、自由に伸ばしめねばなりません。尤も此の際には、衣服長きに過ぎて、運動の自由を妨げざるやう注意すること肝要です。

右の如く、幼児に成るべく自由の運動をなさしむるときは、身體いよゝ強くなりて、速に匍ひ廻り又立ち歩むやうになります。斯く匍ひ又歩むやうになりますれば、或は物につまづき倒れ、或は高さ所より落ち、怪我するを恐れて、運動の自由を制するは有りがちのことですが、成るべく危害を與ふべきものを取り除き置きて、其の自由を妨げざるやう注意あらんことを望みます。

幼児の歩み始に當りて、強て之を助けて歩まし

ひるは、世俗にも脚が曲るなど申すが如く、其の強さに不當の重荷を負はしむるの道理にて、宜しからざることであります。又屢々倒るを危しと云ひて、常に之を助くるは益なきことにて、幼児自ら倒るゝ一回の經驗は、他より興ふる千の誠に優りて、自ら用心し氣を附くるに至ります。實に自ら行爲を制する如く訓練するの大切なるは長幼により違ふ所はありませぬ。

子のたけの伸びたはなしや初裕

## 兒童研究法

### 松本孝次郎講演

子供を研究するといふことは、學校幼稚園ばかりではなく、家庭ですることが甚だ必要です。

植木を愛する人は、植木のことをくはしく知れ

ば、知るほど、植木がかわゆくなり又おもしろくなり、又どう扱ふのがよいかと熱心に考へるやうになります。子供で考へても同じです。子供のことを研究すればするほど子供に對する同情が深くなり、興味を増し。又自分の取扱はどうすればよいかかわるいかといふことを十分考へるやうになります。ですから子供を研究するといふことが研究者の精神に及ばず結果は、

第一、幼兒に對する同情の念を増す事

第二、幼兒に對する興味を惹起す事。

第三、幼兒を保育するといふ事業に忠實になること。

であります。

さて研究せらるゝ幼兒の方はどうであるかとい

ふと、よく幼兒に適當した保育と教育を受けると